

NCGMセミナー

鈴木 教郎 博士

東北大学大学院医学系研究科
酸素医学分野 准教授

「個体の酸素恒常性維持機構と その破綻による疾患への影響」

2017年7月28日(金)17:00～

研究所B1F中会議室(国府台中継あり)

【要旨】生体への酸素供給量の低下は「低酸素ストレス」として生存を脅かす。また、虚血再灌流障害などの病態における酸素代謝異常は「酸化ストレス」として生体分子に傷害を及ぼす。これらのストレスに対し、生体は防御機構を備えている。近年、低酸素ストレスと酸化ストレスが多くの病態の進行に共通して関わっていることが示唆されており、創薬標的としても注目されている。本講演では、酸素代謝異常に対する生体防御機構の役割について、遺伝子改変マウスを用いた最近の研究成果を紹介する。

【参考文献】

Nezu M, Souma T, Yu L, Sekine H, Takahashi N, Wei AZ, Ito S, Fukamizu A, Zsengeller ZK, Nakamura T, Hozawa A, Karumanchi SA, ***Suzuki N**, ***Yamamoto M**. (*corresponding authors) Nrf2 inactivation enhances placental angiogenesis in a preeclampsia mouse model and improves maternal and fetal outcomes. **Sci Signal**. (2017)

Suzuki N, Hirano I, Pan X, Minegishi N, Yamamoto M. Erythropoietin production in neuroepithelial and neural crest cells during primitive erythropoiesis. **Nat Commun**. (2013)

Yamazaki S, Souma T, Hirano I, Pan X, Minegishi N, ***Suzuki N**, ***Yamamoto M**. A mouse model of adult-onset anaemia due to erythropoietin deficiency. (*corresponding authors) **Nat Commun**. (2013)

連絡先：生体恒常性プロジェクト

田久保 圭誉(内線2875)